

第 16 回日本語文法学会大会報告

孫瀾月（東京外国語大学大学院博士後期課程）

大会発表 1：制限的連体修飾節の意味的階層性

三好伸芳（筑波大学大学院生）

◆概要

連体修飾構造において、固有名詞など一般的に定指示とされる名詞が例外的に制限的な修飾をうける現象を取り上げ、考察を行った。その結果、①制限的連体修飾節には、被修飾名詞が「指す対象の集合から特定の集合を取り出す」、「指す対象から特定の時間領域の在り方を取り出す」と「指す対象から特定の認知領域の在り方を取り出す」という三つのタイプが存在することを主張し、②またその分類に従って被修飾名詞の意味分類と関連付けながら制限的連体修飾節の意味的階層を明らかにした。

1、連体修飾節の種類

連体修飾節は意味解釈において「制限的／非制限的」に分けられている。被修飾名詞が不定指示であれば連体修飾は制限的となり、定指示であれば被制限的となる。

(1) a. 日本語学を専攻している学生にこの仕事を頼もう。(# 1 学生にこの仕事を頼もう。)

制限的 不定

b. 日本語学を専攻している太郎にこの仕事を頼もう。(太郎にこの仕事を頼もう。)

非制限的（情報付加） 定

ただ、被修飾名詞が定指示でありながら、連体修飾節が制限的なものとなっている例もある。

(2) a. ポロシャツを着ている太郎はかっこいい。(# 太郎はかっこいい。)

制限的 定

b. 次郎が知っている花子はもっと優しい。(# 花子はもっと優しい。)

制限的 定

すなわち、連体修飾節の被修飾名詞の指示性のみによって連体修飾節の意味解釈を決定することはできないということを示唆している。

2、制限的連体修飾節の三つのタイプ

制限連体修飾節を以下の 3 タイプに分類する。また、定指示の被修飾名詞が制限的に解釈されうるのは B・C の二種である。

A 被修飾名詞が指す対象の集合から特定の集合を取り出す。(1)a

B 被修飾名詞が指す対象から特定の時間領域の在り方を取り出す。

(3) a. グランドで走っている次郎はいつも真剣だ。(# 次郎はいつも真剣だ。)

¹ 「#」は操作前と意味が変わっていることを表す。

→グランドで走っているときの次郎はいつも真剣だ。

b. 夕日に照らされた富士山は美しい。(＃富士山は美しい。)

→夕日に照らされたときの富士山は美しい。

C 被修飾名詞が指す対象から特定の認知領域の在り方を取り出す。

(4) a. 彼が考える太平洋戦争には、重大な問題がある。

(＃太平洋戦争には、重大な問題がある。)

→彼にとっての太平洋戦争には、重大な問題がある、

b. 次郎が見た大阪万博は、つまらないものだった。

(＃大阪万博は、つまらないものだった。)

→次郎にとっての大阪万博は、つまらないものだった。

3、制限的連体修飾節の意味的階層性

被修飾名詞の意味的な分類と関連付けながら、制限的連体修飾の意味的階層性を試みる。

<固有名詞>

① 集合固有名詞：複数の指示対象を持ち、不定指示になる。

(5) a. 冷蔵庫に入れてあるカルピスを飲んだ。(A 制限的解釈)

b. キンキンに冷えているカルピスは美味しい。(B 制限的解釈)

c. 花子が思い浮かべるカルピスはとても懐かしい飲み物だ。(C 制限的解釈)

② 個体固有名詞：単一の指示対象しか待たない。

(6) a. 西郷隆盛像がある上野公園を散歩した。(*A 非制限的解釈のみ可能)

b. 桜が満開になった上野公園は本当に美しい。(B 制限的解釈)

c. 次郎の記憶にある上野公園はいつも人で一杯だ。(C 制限的解釈)

③ 事象固有名詞：過去の一回性の出来事。

(7) a. 雌雄を決する関ヶ原の戦いで敗れた。(*A 非制限的解釈のみ可能)

b. 1600年に起きた関ヶ原の戦いは凄惨な戦だった。(*B 非制限的解釈のみ可能)

c. 太郎が考える関ヶ原の戦いは単なる戦ではない。(C 制限的解釈)

<普通名詞>

(8) a. 冷蔵庫に入れてある麦茶を飲んだ。(A 制限的解釈)

b. キンキンに冷えている麦茶は美味しい。(B 制限的解釈)

c. 花子が思い浮かべる麦茶はとても懐かしい飲み物だ。(C 制限的解釈)

<代名詞>

(9) a. 言語学会に所属する彼女に会いに行った。(*A 非制限的解釈のみ可能)

b. 着物を着た彼女は本当に美しい。(B 制限的解釈)

c. 次郎の記憶にある彼女はいつも笑顔だ。(C 制限的解釈)

以上をまとめると次の表になる。

	制限的修飾が可能な名詞		
修飾節の 意味的階 層	C	事象固有名詞	
		B	代名詞、個体固有名詞
			A 普通名詞、集合固有名詞

◆質疑

一点だけを取り上げる。

タイプ B か C かははっきりしない例がある。C タイプで使われている動詞は認知行動に関わるものであるが、感覚や味覚など、どこまでが認知領域になるのかという曖昧なところがある。

太郎がいつも深夜一人で食べるカップ麺の味はわびしい味だ。

太郎が聞いた〇〇都市伝説、それはそれは恐ろしい話だった。

前者は出来事であるためタイプ B であるが、後者は確かに判定しにくいとの回答。

◆感想：従来一括して定指示とされてきた固有名詞、代名詞などをさらに意味的な性質によって下位分類をし、どういったところに異なる振る舞いをするのかを検討するところに大変価値があると思われる。ただ説明用の例文は三つのタイプに合わせて作られたものが多いのではないかとやや疑問に思っている。質疑と似たような考えである。

大会発表 2：類義漢語の品詞性と意味 — 「貧乏」と「貧困」について—

中山健一（茨城キリスト教大学文学部）

◆概要

類義語の関係にあつて語彙的な意味が非常に似ており、一般にどちらも名詞としても第二形容詞（形容動詞）としても使われるとされる「貧乏」と「貧困」という二つの漢語を取り上げ、両単語に品詞性の違いがあるのか、そして、あるとすればそのことと語彙的な意味がどのようにかかわっているのかを考察した。またコーパス調査によって、両単語における通時的な変化の有無も考察した。その結果、①「貧乏」と「貧困」は実例数の点において品詞性が異なり、「貧乏」は第二形容詞、「貧困」は名詞に偏っている傾向を示している。また、②その品詞性の違いは語彙的な意味の違いとの関係を考察した。なお、③明治大正期より現代語のほうが両単語における品詞性の違いが顕著であることを明らかにした。

1、品詞分類の基準

形態論的な特徴と統語論的な特徴の双方を基準に行う。

- ・名詞：格助詞（ガ、ヲなど）をとめない文の中で主語や補語としてはたらく。

格助詞ノをとめない名詞を修飾する。

- ・第二形容詞：格助詞をとめない。主語や補語にならない。

「～ナ」という語形で連体修飾する。

「～ニ」という語形で連用修飾する。

- ・動詞：「スル」と組み合わせる。
- ・名詞・第二形容詞共通：「～ダ」「～デアル」という形の述語になる。

形態論的な特徴だけでは判断がつかない述語の場合は、主語と述語との統語的な関係に着目して分類を行う。

- (1) その国は貧困だ。(形容詞)

性状を規定するもの。形容詞述語文が典型。

- (2) その国がかかえる問題は貧困だ。(名詞)

判断を表現するもの。名詞述語文が典型。

2、品詞ごとの実例数の偏り²

	第二 形容詞	名詞	サ変動詞	複合名詞派生 名詞の一部	派生形容詞複合 形容詞の一部	分類 不能	合計
貧	85	46	7	141	4 ※1	1 ※2	284

² 現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)の検索アプリケーション中納言を利用した調査結果である。また、ジャンルは「出版・書籍」である。

乏	30%	16%	2%	50%	1%	0%	100%
貧 困	18	209	0	91	0	0	318
	6%	66%	0%	29%	0%	0%	100%

※1 「貧乏くさい」「貧乏らしい」。

※2 語幹のみで提示された、辞書的な説明の対象となる例。

実例数の差によると、「貧乏」は第二形容詞に、「貧困」は名詞に偏っている。

また、複合名詞・派生名詞の一部となる場合においても次のような違いが見られる。

「貧乏」：後要素で表される人・事柄の状態を表すものがほとんど。

「貧乏人」「貧乏暮らし」「貧乏学生」…

「貧困」：①後要素で表される人・事柄の状態を表す。「貧困層」「貧困者」…

②後要素の内容となる事柄（「貧困問題」）や、動作性名詞である後要素の対象になる事柄（「貧困削減」「貧困撲滅」）など、名詞らしい例もかなり見られる。

3、品詞と語彙的な意味の関係

「貧乏」はその状態の持ち主が個人である（「貧乏な青年」）ことが多いのに対し、「貧困」は状態の持ち主は個人というより、人の集団（階層、国、地域）である（「貧困な諸国」）ことが多い。「貧乏」よりも「貧困」は、人の持つ状態を表すと同時に、人間社会に存在する現象といった抽象概念を表すといえる。そのため、「貧困」は名詞としての用法が多いと考えられる。

また、「貧困」には「必要なもの、大事なものがとぼしいこと」という派生義がある。派生義を表す 38 例³において 21 例が第二形容詞であり、派生義は第二形容詞の場合に特に見られると言える。また、欠如しているものとしては精神活動に関わる事柄、なんらかの能力が多い（「感性」「発想」「思想」「想像力」「語彙」「知識」「スキル」など）。経済的な欠乏状態という基本義で、かつ第二形容詞の場合には「貧乏」と重なるので、ある種の棲み分けとして「貧困」が第二形容詞の場合に特に派生義を発達させていると考えられる。

4、品詞性の通時的変化⁴

	第二 形容詞	名詞	サ変動詞	複合名詞派生 名詞の一部	派生形容詞複合 形容詞の一部	分類 不能	合計
貧 乏	49	40	16	87	0	1	193
	25%	21%	8%	45%	0%	1%	100%
貧 困	11	33	1 ※	5	0	1	51
	22%	65%	2%	10%	0%	2%	100%

³現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) の検索アプリケーション中納言を利用した調査結果である。また、ジャンルは「出版・書籍」＋「出版・雑誌」＋「図書館・書籍」である。

⁴ 太陽コーパスを利用した調査結果である。

※「貧困せしむる」という使役の形。

明治大正期の書き言葉に比べ現代書き言葉の方が、「貧乏」と「貧困」の品詞における実例数の偏りが大きくなっている。また、「貧困」の派生義は明治大正時代の資料には見られないため、比較的新しい派生義である可能性がある。

◆質疑

二点だけを取り上げる。

1、「貧乏」「貧困」が「～ノ」の形をとって連体修飾機能を果たす例はあったのだろうかという疑問に対し、気づかないくらい少数であると回答。

(筆者注：発表者と同様のコーパスを利用し、ジャンルを絞らずに検索した結果、両方とも「～ノ」形の連体修飾形式が見られた。また、「貧乏」の場合は「～ナ」形、「貧困」の場合は「～ノ」形の例数が圧倒的であった。修飾する名詞のバリエーションを簡単にみても、「～ノ」形には抽象名詞しか出現しないという傾向が見られる。この現象も品詞性の問題に影響されているのではないかと考えられる。

貧困な：「患者」「国」「生活」「状態」「感性」「鑑賞能力」「考え方」…

貧困の：「原因」「問題」「改善」「悪化」「度合い」「思想」「体験」…

貧乏な：「旅人」「牧場」「国」「暮らし」「環境」…

貧乏の：「どん底」「境遇」「悲惨さ」…)

2、複合名詞・派生名詞の一部である場合も、形容詞と名詞との区別がつくのではないかという疑問に対し、品詞をあくまで文のパーツとして文中でどのような働きを果たしているのかという観点から分類すると回答。

(筆者注：複合名詞・派生名詞の一部である場合に対する分析は、後要素の内容との意味的な関係に着目している。これは、発表者が採用している形態・統語的という品詞分類の基準と一致していないためこうした疑問が生じたのではないかと思う。複合名詞・派生名詞も対象とするのであれば、意味的な基準と形態・統語的な基準をどのようにうまく統一させていくのが問題になる。)

◆感想：類義漢語の品詞性を取り上げて品詞論を語ることは非常によい発想であると感心する。また、品詞性の通時的変化を考察し、その違いを示したことも高く評価される場所であると思われる。ただ、品詞という概念をどのように捉えるのかは研究者によって異なるので、発表者が従っている理論はどの点では有利になるのかという内容を少し補足してもらいたい。また、「貧乏」と「貧困」という二つの類義語を対象にして考察した結果を、どのように品詞論において一般化させていくのかというところにも非常に興味深い。